

# 放送コンテンツの海外展開について

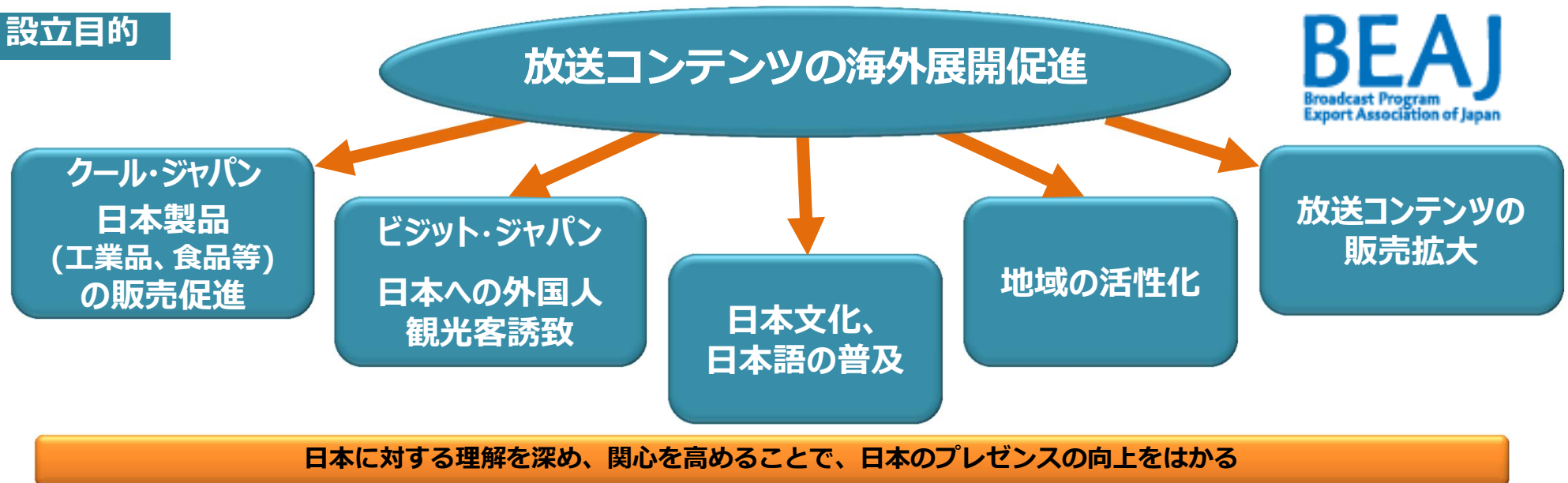
---

平成25年12月3日  
総務省

# 一般社団法人 放送コンテンツ海外展開促進機構<sup>ビージェイ</sup>(BEAJ)について

- ・日本の放送局や権利者団体、商社、広告代理店などが中心となり、日本のテレビ番組の海外展開促進を目的として2013年8月23日に設立。
- ・当面の戦略としては、ASEAN主要国において、地上波等の効果的なメディアで放送枠を確保し、魅力ある日本の放送コンテンツを継続的に放送する。

## 設立目的



## 構成

理事長	岡 住友商事・相談役 (放送コンテンツ流通の促進方策に関する検討会 座長)
理事社	地上放送 NHK、日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビ 衛星放送 スカパー J S A T、WOWOW 権利者団体 日本音楽事業者協会、日本芸能実演家団体協議会、日本レコード協会 関係業界 住友商事、伊藤忠商事、電通、博報堂、日本民間放送連盟

# 国際共同製作支援の執行状況

- ・放送コンテンツの海外展開に当たっては、現地のニーズに合わせたコンテンツを製作・発信するために、海外放送局と連携し国際共同製作を行うことが有効。
- ・総務省では、平成24年度補正予算事業（予算額：15億円）として、日本の放送局等と海外の放送局が連携してコンテンツを製作・発信するモデル事業（以下の4区分）を実施。

## 「アジア」

8.5億円

平成25年6月採択済

### <目的>

現地メディアでの継続的発信による人気定着や、関連産業との連携等によるビジネスモデルの確立。

### <選定>

148件応募、41件採択

## 「グローバル(欧米等)」

3.5億円

平成25年6月採択済

### <目的>

フォーマットの共同開発等により、北米・欧州市場での販路開拓。

### <選定>

41件応募、14件採択

## 「グローバルメディア」

1.5億円

平成25年7月採択済

### <目的>

グローバルメディア（ディスカバリー・チャンネル）との共同製作による海外ニーズに沿った番組の放送。

### <選定>

73件応募、5件採択

## 「地域の活性化」

1.5億円

平成25年7月採択済

### <目的>

地元企業等との連携によって、海外からの観光客の増加等の地域の活性化に資する映像コンテンツの製作。

### <選定>

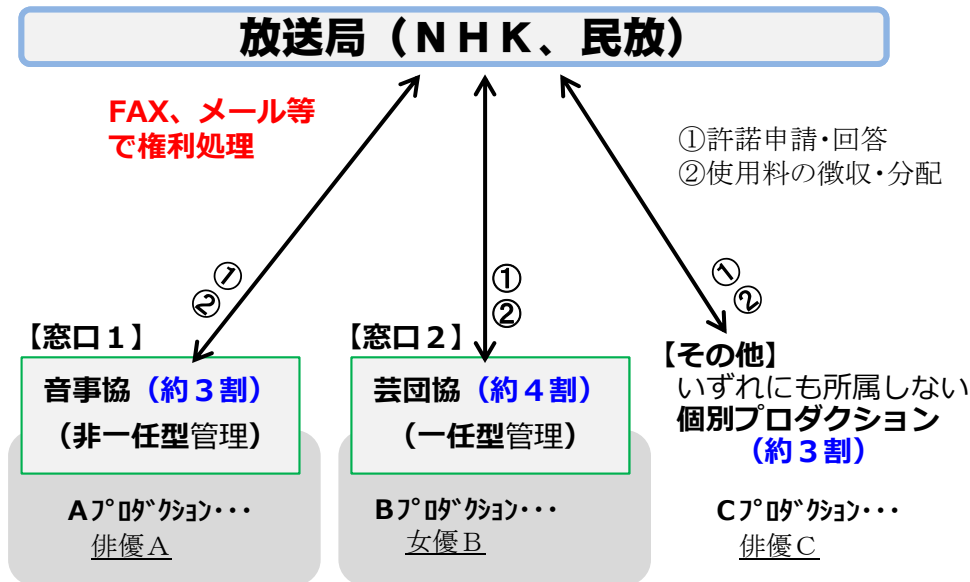
101件応募、12件採択

# 放送コンテンツ二次利用に係る権利処理の問題点及び対応策 (aRmaにおける権利処理の円滑化)

- 放送コンテンツの二次利用（海外販売、ネット配信等）に係る実演家（俳優、歌手等）の権利処理については、従前、
  - ①窓口が複数で、実演家ごとに所属団体を調べて申請する必要があったこと
  - ②申請手続が電子化されていなかったこと等から、処理手続が極めて煩雑で時間を要するという問題点があった。
- 上記の問題点を踏まえ、<sup>アルマ</sup>aRma(映像コンテンツ権利処理機構)を設立(平成21年)の上、順次権利処理窓口の集約化、システム処理化を政府支援のもと進めてきたところ。この結果として、権利処理業務は大幅に効率化。  
(現在のaRmaのカバー率は約9割。「申請」から「使用料の支払」までの年間作業時間は約3割削減)
- 今後、権利処理の更なる効率化のために、権利使用料の徴収・分配までのシステム化について平成26年度までに整備する予定。

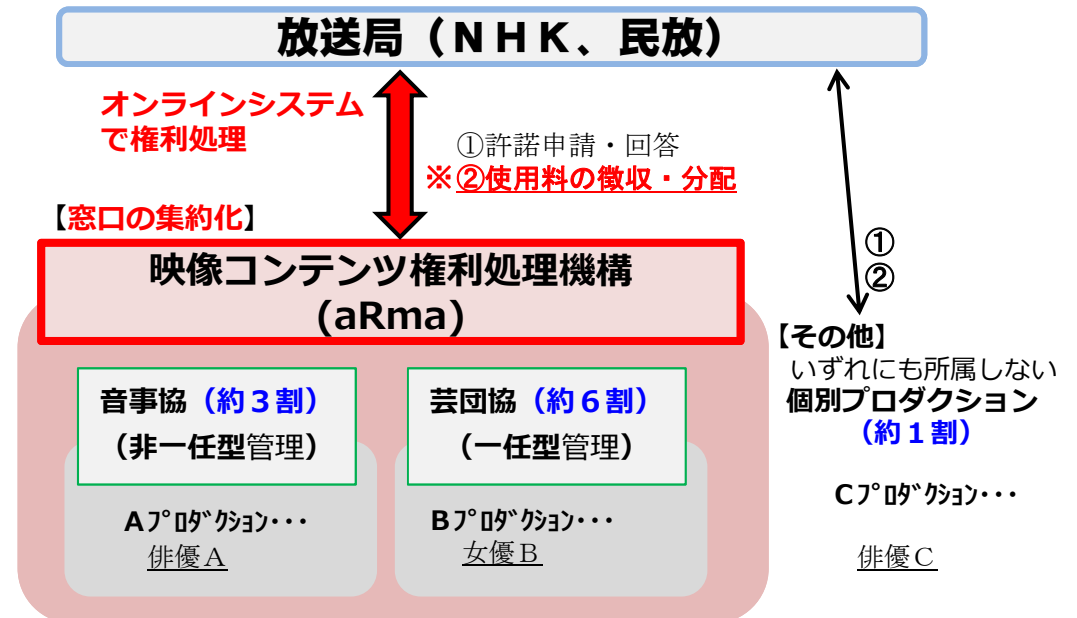
## 以前 (aRma設立前)

【放送番組（俳優A、女優B、俳優C等が出演）の二次利用の場合】



## 現在・将来

【放送番組（俳優A、女優B、俳優C等が出演）の二次利用の場合】



※平成26年度までに使用料の徴収・分配までをシステム化